

第5回狛江市の新図書館を考える市民ワークショップ（2022年5月15日開催）の意見

グループ名：かさ		してみたいこと・必要な空間等	理由
新設図書館			
1階	今流行の本やよく貸し出される本を置いてほしい	多くの人が2Fに上がることなく本が借りられる	
	小説、実用書、くらし	利用が多いもの	
	入口近くに狛江のさんぽ雑誌やおいしい店のマップなどおいてほしい	まだ狛江市に住んで間もない方などに、狛江の魅力やオススメスポットなどを知ってもらいたい	
	市内図書館の本をけんさくできる装置	利用しやすい ※人の動きを考えてうまい配置を	
	1Fは単に開架を設けるだけでなく、コンサートやサロン等としても機能するような空間が欲しい	図書館は本のための建物ではない。市民の「居場所」であるべきだから。気付きから始まる「アクションの連鎖」が起こり得る機会と場を提供する必要があるから	
	1F 中央にカフェ（※）を配置したい （※）作業所の要素	本を読む人だけの建物にならないように敷居の低い雰囲気にするため	
	新図書館の入口 駐輪場の側にしてほしい	—	
2階	社会・人文、科学、アート etc	—	
	書架 従来図書館の要素だけでなく、本屋の配置にも学びたい	より多くの市民に親しみのある、雰囲気を出すため（本屋に行ったことのある、本屋には行く人への配慮）	
	探しやすいディスプレイ	一番本を置ける場所なので、効率よく探せるようにしてほしい	
3階	地域資料、レファレンス資料	—	
	本を閲覧する席やPCを使える席を設置してほしい	高い場所で明るい場所になるので、本を置くよりもその方がいいのではないか 一番建物の奥なので一番しずか	
市民センター図書コーナー			
図書館のことを考えるとA案がいい		図書館広い 気にせず使える	
B案がいい		フリースペース前面 事務室 総合窓口	
名称を「子ども図書館」としてはどうか		目的がはっきりする	
市民センターの図書コーナーにも「活動支援型」の要素を具体化する人員を置きたい		本来公民館の中に図書館を置いた意味を後世に伝えて行くため	
その他			
機能が先 部屋割はあと		—	
図書館職員のサービスが重要（両方の施設に）		図書館は本の貸出だけでない	
知の拠点		資料通して知る権利を保障すること、	
2分割はサービス低下、利用が不便		子連れ 親子2ヶ所行かなくてはならない 大人 本はダグラ ザッシは市民センターへ	
サービス・人 2館分割		図書館運営が大変→サービス低下	
子育て中の方やお年寄り市民センターと新図書館の両方が必要な機会が多いと思う		やはり2ヶ所に分けられるのは不便	

グループ名：長ぐつ

してみたいこと・必要な空間等		理由
新設図書館		
1階	貸出しコーナー	通勤、通学時間（7：00～20：00とか）営業してれば借りやすい
	新聞、自販機	入りやすくなりそう
	新設図書館には雑誌新聞コーナーは不用と考える	雑誌新聞コーナーには、同じ様な人が滞在するので、本の試読が難しくなるので。
	狛江市の物産や狛江市の団体、商店、企業などの案内、地域の特性など	狛江市のいろいろな紹介や魅力の発信、宣伝の場にしたい
	各地域の図書館の管理センター	狛江市には地域センターなどに図書室があります。本の管理や情報をやりとりする
2階	開架スペース	ゆっくり本がえらべる
3階	仕事、勉強スペース	静かで眺めがいいところ
市民センター図書コーナー		
B案が望ましい		フリースペースが広く新聞雑誌が読み易い
B案に		フリースペースが自由につかえるのでは イベントなどによりパーティションなどできる
雑誌、新聞、売店		のんびり出来れば良い
録音室は不用では？		音読された（Amazonとか）で出ているので、費用対効果が望めないのでは？必要なら、他のスペースで録音してはどうか？
市民センターに本の返却ボックスを設けて欲しい		市役所に来た際に返却出来るので
その他		
蔵書を増やして欲しい		電子書籍苦手
電子図書		子どもがなじむ
「紙の本」と同じ様に、 <u>電子図書</u> でも、希望するタイトルの取りよせ、又は導入を可能にして欲しい（システムとして）		現状は、「紙の本」の様に希望するタイトルを取りよせするシステムが無い！（小生には不明）
電子書籍が「安い」わけではない		2年毎の契約更新
電子書籍の権利関係は？		費用と効果
「紙の本」と「電子書籍」の使い分けの計画を提出して欲しい		どの様な展望を持っているのかをうかがいたい。
ICTを専門とする司書を設定して頂きたい		ICTの領域は広いので、利用できる範囲が理解できていない（使い方も） （例）国立美術館のアーカイブ、RESASの使い方、その他
WIFI設備		電子図書の試読の為
色々な面のものを知りたい		ワンストップでサービス
週に一回位開館時間を遅らせる		20～50才代の現役世代が使う為
「図書コーナー」って「子ども向けサービス」？		「新図書館」の内部配置が決まっていないのに
親子連れで楽しめる？		「案」では「子ども向けサービス」は「（市民館）図書コーナー」
地域センターをもっと活用する		現在も充分な機能が有るので
予算が当初より増えていないか？		他の公共サービス低下につながらないか？

グループ名：おたまじゃくし

してみたいこと・必要な空間等		理由
新設図書館		
全体	静・動の区別	にぎやかなところ、静かなところ（無音）どちらもあった方がよい
	BGMを流して欲しい	他人の物音ばかりが気になる”シーンとした図書館”はイヤだ
	カベが少ない図書館	限られた面積の中で広く見せる工夫が必要
	明るく魅力的な階段として欲しい	気持ち良く上下移動をしたい（基本、階段利用だと思うので）
	階段は無理	—
	市民の学びや暮らしを彩り、狛江の実りを未来へつなぐ図書館	動けるスタイルで市民の人たちが参加しやすくなる
	場所がかぎられてて本も少ないから、希望の本を探すサービス	サービスを充実させる
1階	狛江のコーナー	歴史等をつないで欲しい
	年4～5回 期毎の企画展型 1F	博物館・美術館と似た様式で蔵書や専門家（狛江在住）主催の企画展コーナー ※狭いから無理ではなく…
	常設・企画＝受付（銀行等同じ）	—
	1F	本・知識への関心を高める→文字、本離れ、分散、簡易化、簡素化の予防
	サロンスペース	ほっとする空間が必要 お茶を飲むスペース
	カフェ出張所が欲しい（少ないスペースで良い）	狛江にあるいろんなカフェが簡易的に出店し、週替わりで楽しみたい
	1F	空間づくりから生まれることもあるが…目指す方向性がある→空間は変えられる。「市民の学び・暮らしを彩り・つなぐ」
2階	レファレンスルーム	—
3階	イベントスペース	図書館としての講座などを開講して欲しい
	3Fに屋上テラス・緑化が欲しい	気持ち良く本を読みたい
2・3階	図書館ボランティア、企画展の準備室	サービスを受けるから→サービスをする（市民図書ボランティア） →～のあり方の到達に。「市民の学び・暮らし～」
市民センター図書コーナー		
狛江の人の活動を紹介できるようなコーナー		地域のつながりを深めるため
狛江のでんき・エネルギー、持続可能なとりくみを紹介する		狛江のよさを認識し、市民が参加できるようにする
狛江の遊びMap、多摩川や野川、農、ポニーなど		緑化、樹木、景観保全の意識を高め、守るために
NY図書館のように交流トークイベントを主催する（市民参加の）		場所は市民センターの一室で定期で開催
狛江のお店が出店できるようなスペース（動）		狛江のお店を応援したい（狛江に限定しなくてもつながりがあればよいかと）
その他		
1F B案 フリースペースは窓が多い方希望		樹木、外の景色を共有した方が明るいので
各分野に必要な最低限の冊数の本があること。質を伴った…。		—